

ひきこもり等

子ども・若者相談支援

センターを

利用されている方へ

のアンケート調査

《調査結果報告》

枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター

## はじめに

この報告書はひきこもり等子ども・若者相談支援センター(以下「支援センター」)を利用している当事者の方たちを対象に実施されたアンケート調査の結果をまとめたものです。回答していただいた方々には、深く感謝申し上げます。

アンケートは支援センターを利用されている当事者の方の実情や思いを理解することを目的としています。支援センターは平成 25 年より開設され、はや 10 年が経ちます。このタイミングで一度、普段の面談とは異なる形で支援を利用されている方たちの声を聴いてみたいと考え、アンケートの実施に至りました。

頂いた回答はどれも応えてくれた方の想いと個性が伝わってくるものでした。ひとつひとつが回答者の輪郭と“存在の重さ”が感じられる、濃い内容だったと思います。また、それらを集計してデータとして眺めてみても、興味深い内容が浮かび上がってきました。相談業務に携わるものとして、非常に考えさせられる内容でした。

相談に来られている当事者、ご家族、関係者もそうでない方も。このアンケート報告が私たちにとってそうだったように、読まれた方へ何らかの気づきや発見をもたらすものとなってくれば幸いです。

枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター  
相談員一同

※アンケートは一般社団法人ひきこもり UX 会議が出版された「ひきこもり白書 2021」を参考に作られています。質問項目の多くはひきこもり白書を基にしつつ、支援センターの内実にあわせて調整し作成しました。ひきこもり白書の調査結果と比較しながらこの報告書を読んでもみると、面白いかもしれませぬ。

## 目次

はじめに	1
アンケート概要	3
アンケート結果	4
1. 回答者の基本属性、状況	4
2. 最終学歴、中退歴	7
3. 「ひきこもり」について	9
4. 「生きづらさ」について	12
5. コミュニケーションについて	16
6. 仕事について	21
7. 支援センター、居場所「ひらぽ」について	25
8. 自由記述「将来について感じている不安」	28
9. 自由記述「あなたの思い」	29
おわりに	31

## アンケート概要

- 実施対象 : 支援センターを利用されている当事者本人(家族は含まない)
- 実施期間 : 令和4年6月から8月までの間
- 方法 : アンケート用紙もしくはオンライン・フォームに記入
- 回答数 : 40件

アンケートは支援センターを利用されている当事者の方を対象としました。支援センターでは不登校・ひきこもりの相談窓口という特性上、相談員が当事者本人と直接繋がっているケースだけではなく、家族や関係者を通しての間接的な支援をおこなっているケースも多いです。そのため、当アンケート報告は支援センターを利用されている方全ての声ではなく、あくまで「相談員と直接関わっている当事者のうち、アンケートに答えてくれた方」の言葉をまとめたもの、となります。

ただ、令和3年度末時点では支援センターを利用されている当事者本人の利用人数は127件であり、その三分の一にあたる40件の回答から得られるデータは「センターを利用している当事者の方の声」として十分参考に値するものと思えます。

### 参考：支援センターの相談件数等データ

<相談回数(延べ件数)>

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
面接相談	1,746	2,131	2,158	1,817	1,881
電話相談	326	335	505	601	565
居場所	430	415	487	373	430
家族の会	56	53	59	52	59
計(件・延べ)	2,558	2,934	3,209	2,843	2,935

<相談件数(実数)>

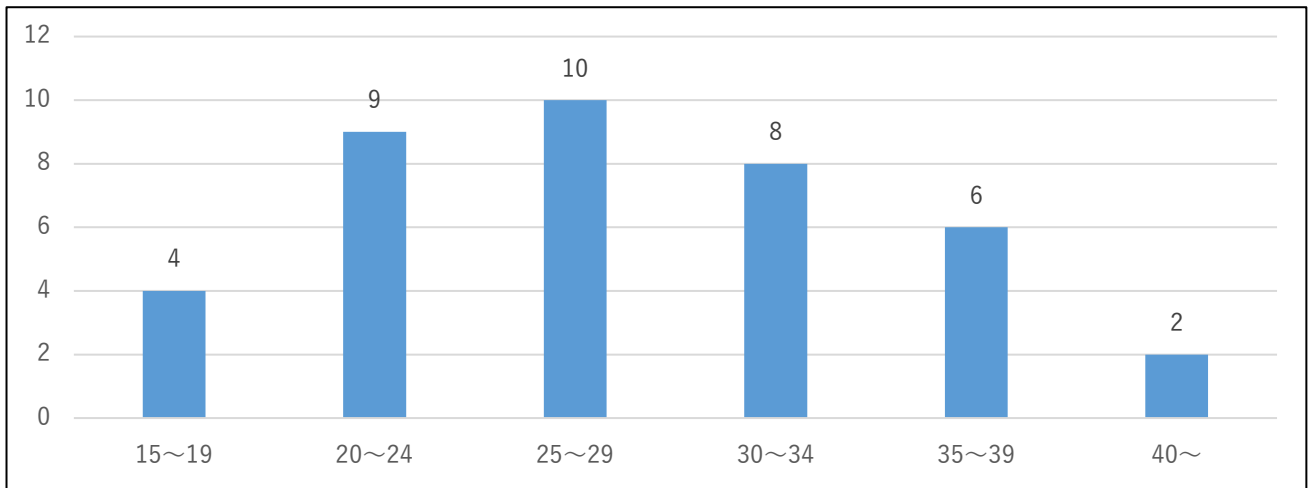
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実相談(件)	248	247	300	249	246
新規相談(件)	136	122	152	72	82

相談の内訳(令和3年度)	
本人	50
本人と家族	77
家族のみ	115
その他	4
合計	246

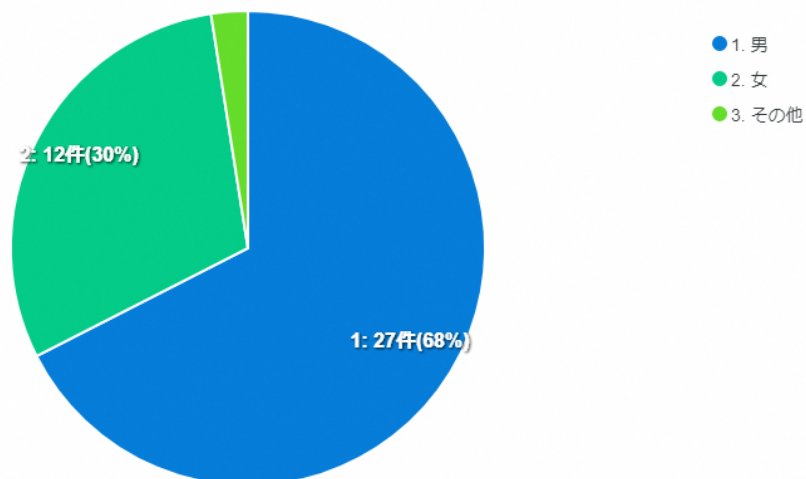
# <アンケート結果>

## 1. 回答者の基本属性・状況

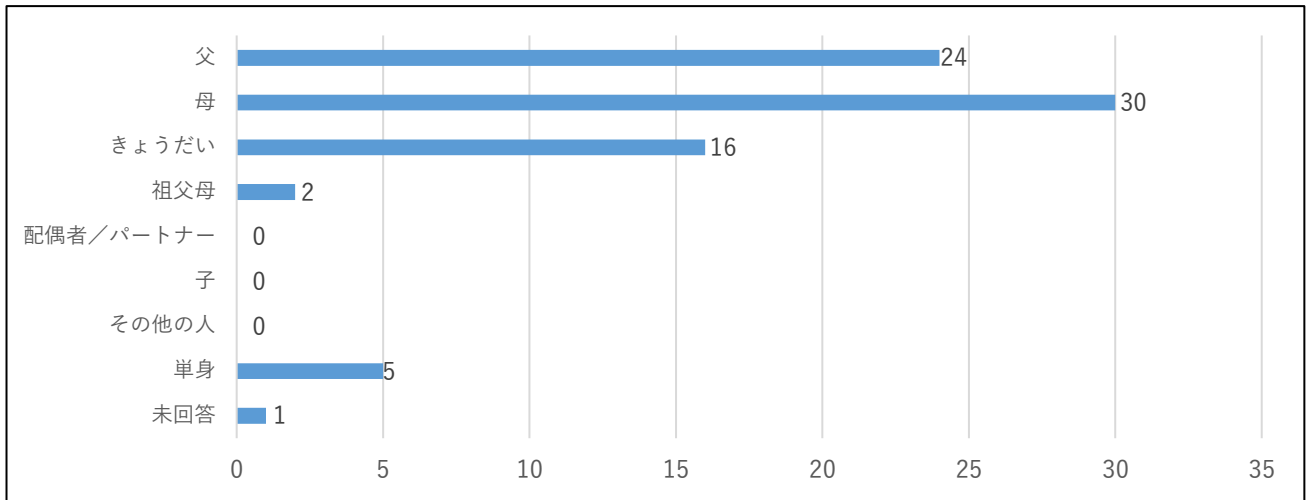
### <年齢>



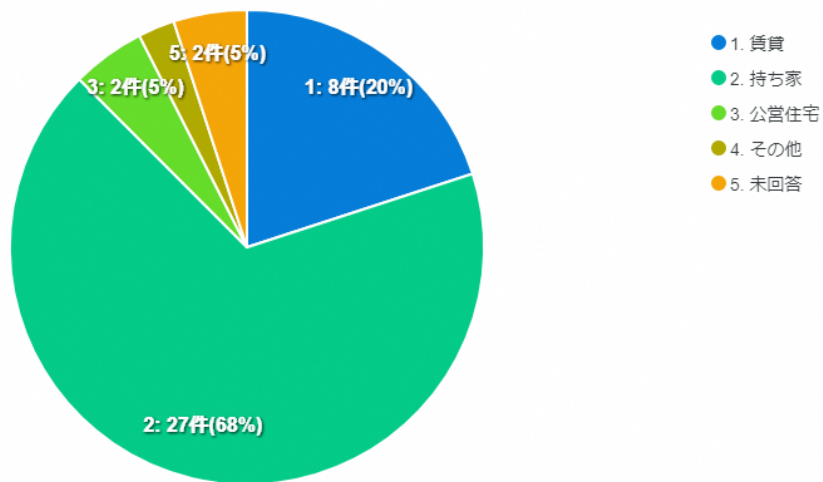
### <性自認>



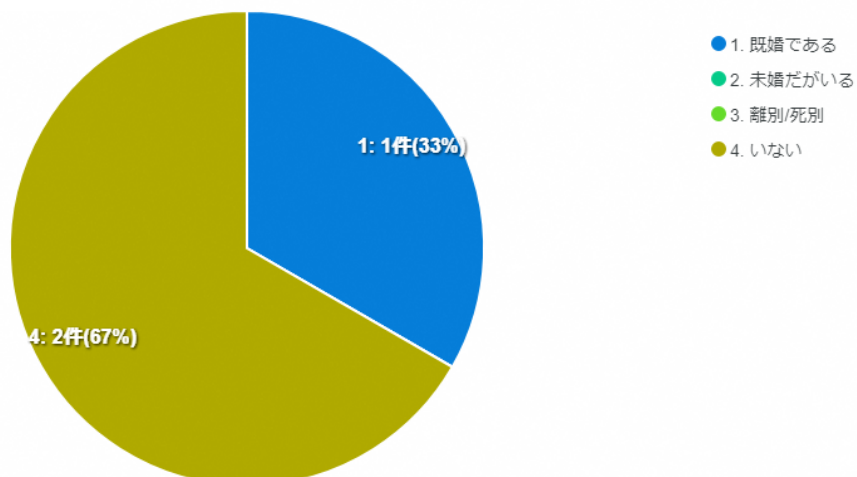
<誰と同居しているか (複数回答)>



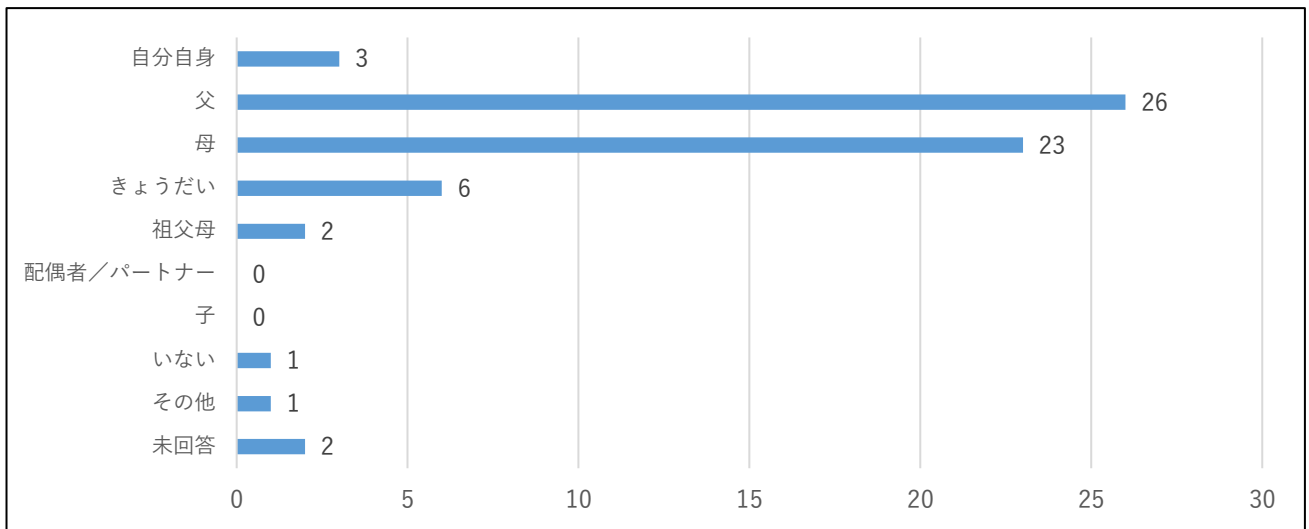
<住まいのタイプ>



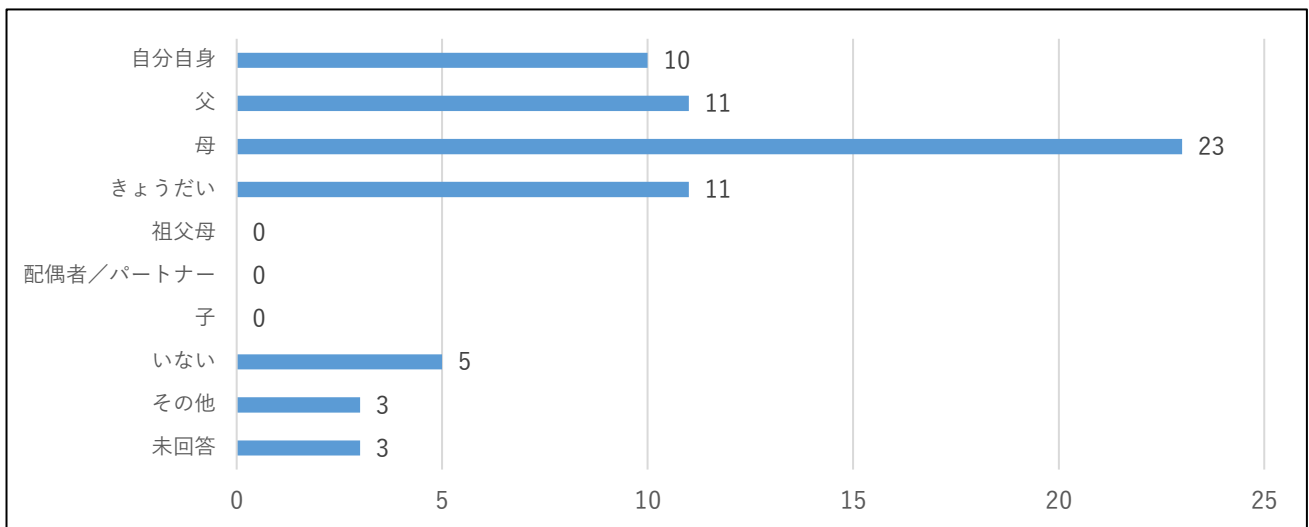
<配偶者の有無>



<家族の中での経済的な支えは誰か（複数回答）>



<家族の中での精神的な支えは誰か（複数回答）>

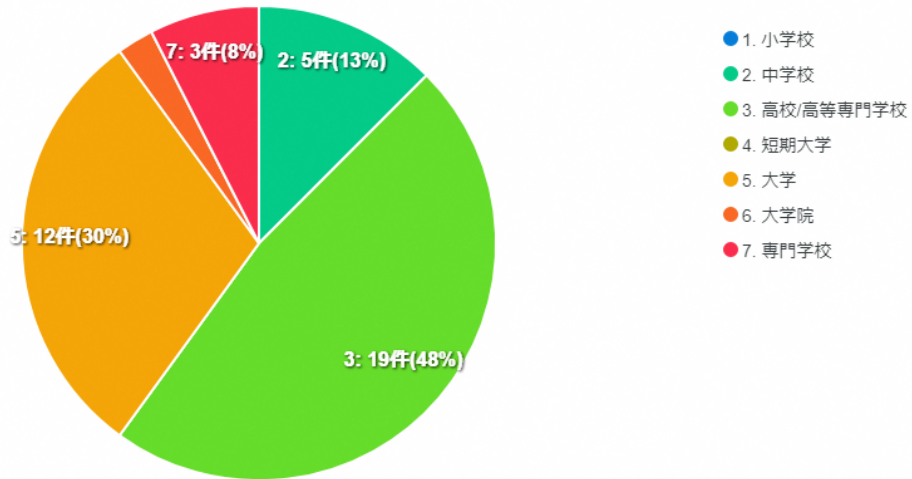


回答者の年齢は支援対象年齢の中間層である 25 歳～29 歳が最も多かったです。性別の割合も支援センターを利用されている当事者全体の割合とおおむね一致しています。

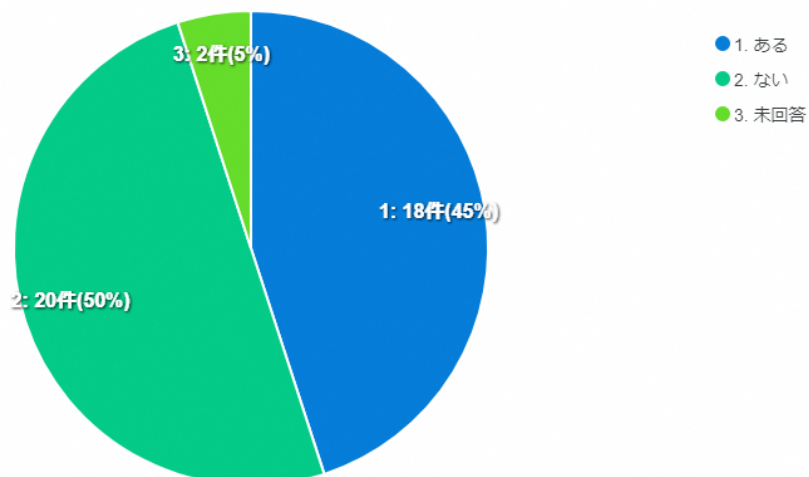
家族と同居している人が多いことと連動してか、親を中心とする家族のいずれかが経済的な支えになっている方が多いようです。一方で、精神的な支えについては、「母」という回答数が突出していました。母親が重要な役割を果たしていることと同時に、負担が母親に集中したり、本人と母親との二者関係に固定されてしまう場合があったりするのではないかと考えられました。

## 2. 最終学歴、中退経験

<最後に在籍(または現在在籍)している学校>

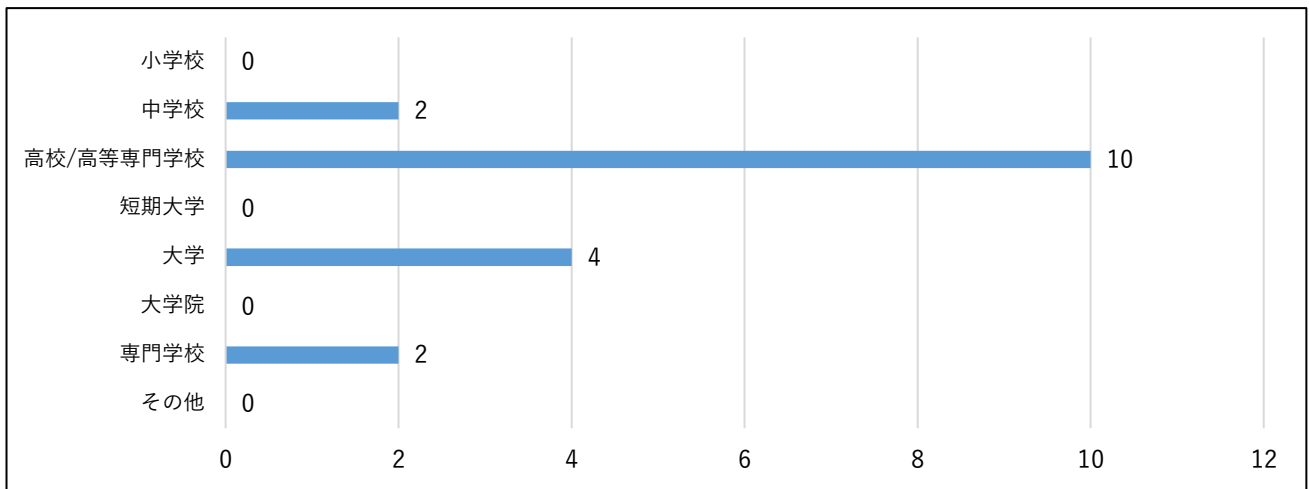


<中退経験>





### <中退した学校の種類>



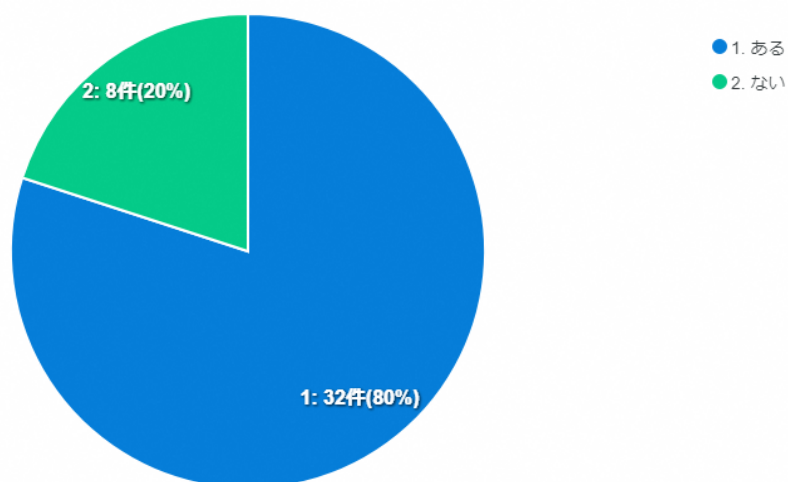
令和2年度文科省の調査(※)によると高校中退率は2%に満たないというデータがあります。一方、今回のアンケートでは回答者の45%にいずれかの学校の中退経験があるという結果が浮かび上がってきました(うち高校中退は20%)。

中退は結果であり、そこに至るまでには相当なしんどさや葛藤があったと想像します。ひきこもり等、現在抱えているしんどさは学生時代からすでに始まっていることが多いかもしれませんが。また中退の経験それ自体が、たとえそれが当事者の主体的な選択だったとしても、社会の軌道を外れていくような心細さや怖さを感じさせるものではないでしょうか。傷つきや挫折が、自信の持ちづらさに影響を与えることは日々の相談でも強く感ずるところです。

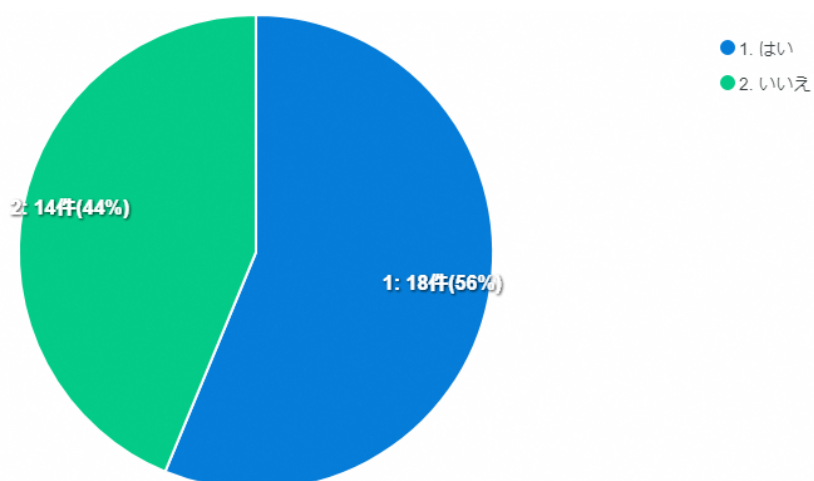
※「令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」

### 3. 「ひきこもり」について

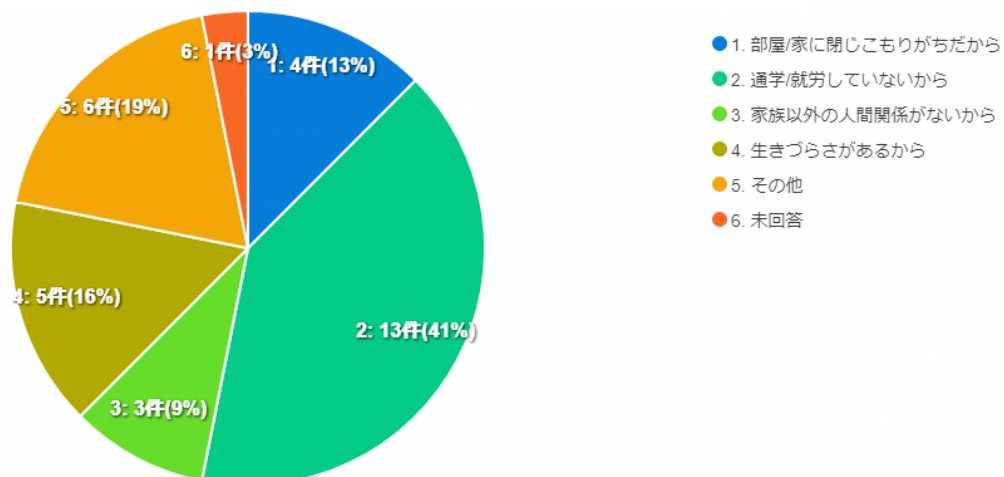
<これまで「ひきこもり」だったことはあるか>



<現在「ひきこもり」か>

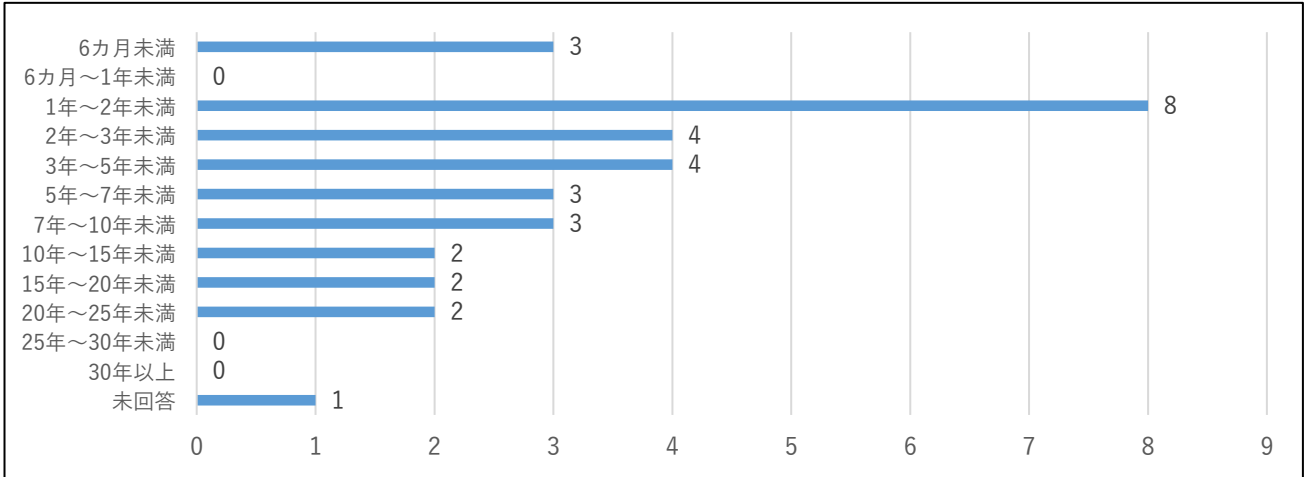


<なぜ自分を「ひきこもり」だと思ったか>



○「その他」回答者のうち5人は「ひきこもり」だと思う理由が一つではなく、複数にまたがっていることを述べています。残りの一人は「自立をしていない」と回答しています。

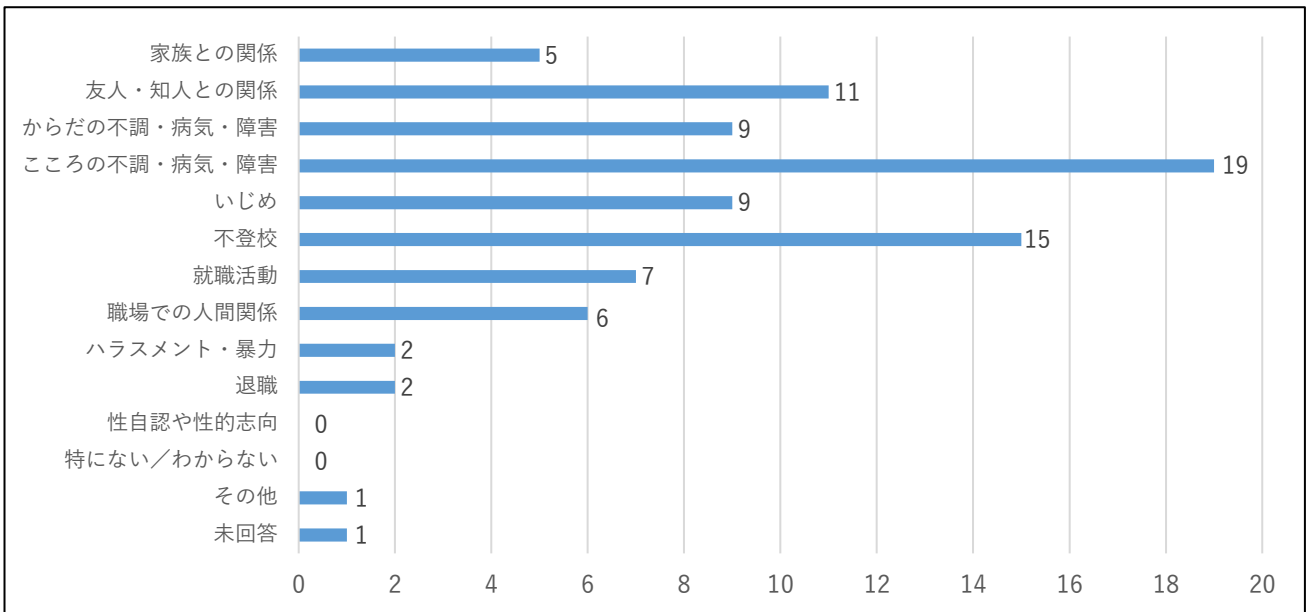
<「ひきこもり」期間（累計）>



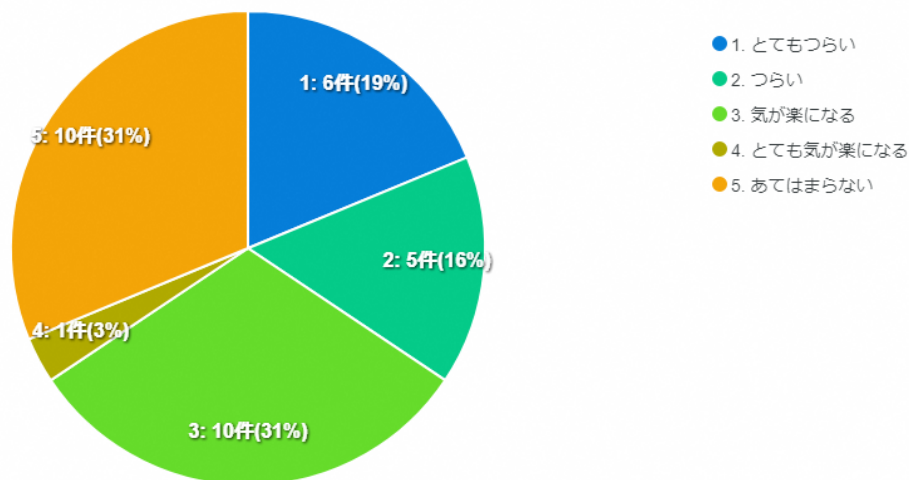
○ひきこもりの初発年齢については、最も低い年齢で10歳。最も高くて30歳からでした。年代の割合は10代が16名、20代が9名、30代が1名で10代が最も多い結果となりました。

○初発年齢からずっとひきこもっている方だけでなく、たとえば「13歳から3年間ひきこもり、その後19歳から5年間ひきこもり状態」というように、ひきこもり状態ではなくなってから、間の期間をはさんで再びひきこもった、という方も少なくありませんでした。

<「ひきこもり」の原因、きっかけ（複数回答）>



<ひきこもることはつらいことか、それとも気が楽になることか>

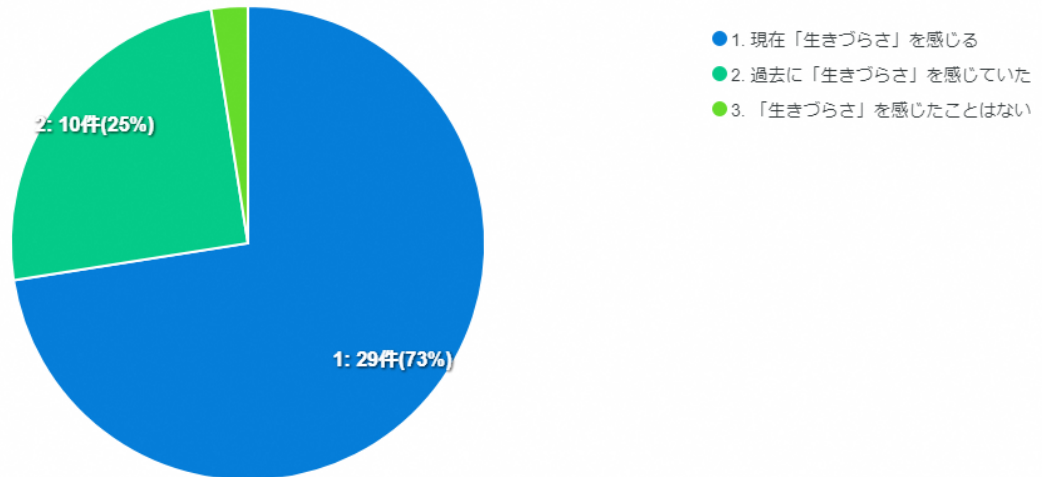


当アンケートでは「ひきこもり」について既存の概念や外部からの評価による定義づけをしておらず、「ひきこもり」かどうかはあくまで回答者の自己認識に委ねています。そのほうが当事者の方たちのリアルに迫れるのではないかという考えからです。実際の相談業務においても、既存の「ひきこもり」で一括りにはできないほどに多種多様な悩みをお聞きしています。

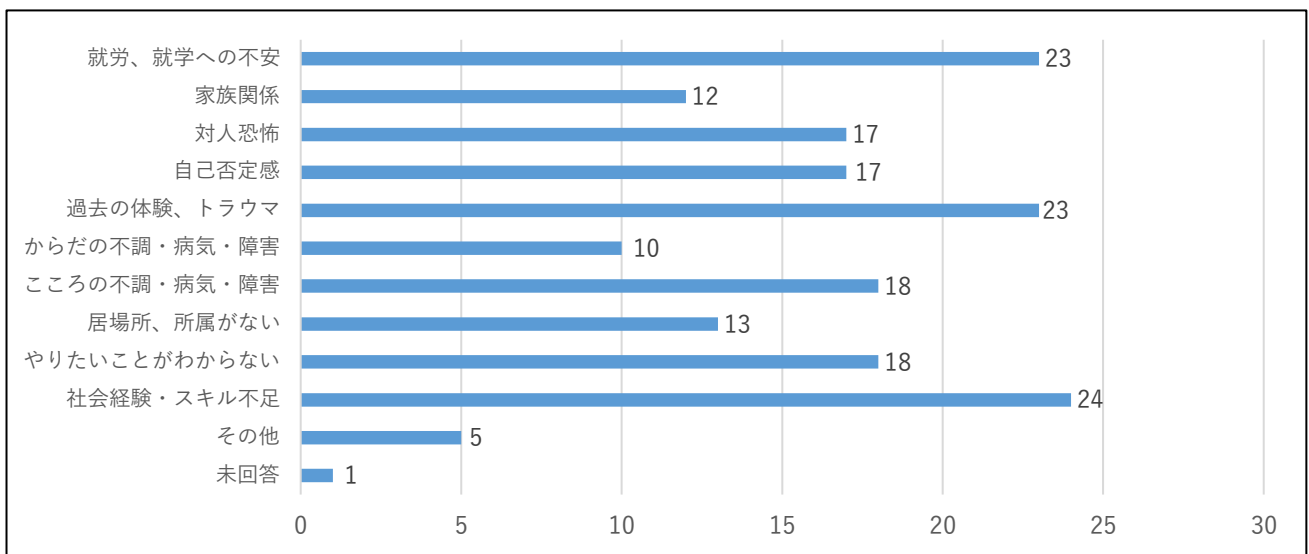
アンケートの回答からも「ひきこもり」についての自らの認識や気持ちについては幅があることがうかがえます。ひきこもりの原因、きっかけも複合的であり一概にはいえない複雑さがありますが、「こころの不調」を抱える人がかなりの数いることは確かです。ひきこもることでの気持ちについても「辛い」「気が楽になる」「あてはまらない」がそれぞれ同じくらいの回答者数でした。ここから例えば“外に出るよりマシだが決して気が楽になるわけではない”といった複雑な思いを抱えていることなどが想像できます。

## 4. 「生きづらさ」について

< 「生きづらさ」を感じたことがあるか >



< 「生きづらさ」の由来、原因 (複数回答) >



○ 「その他」回答者の自由記述

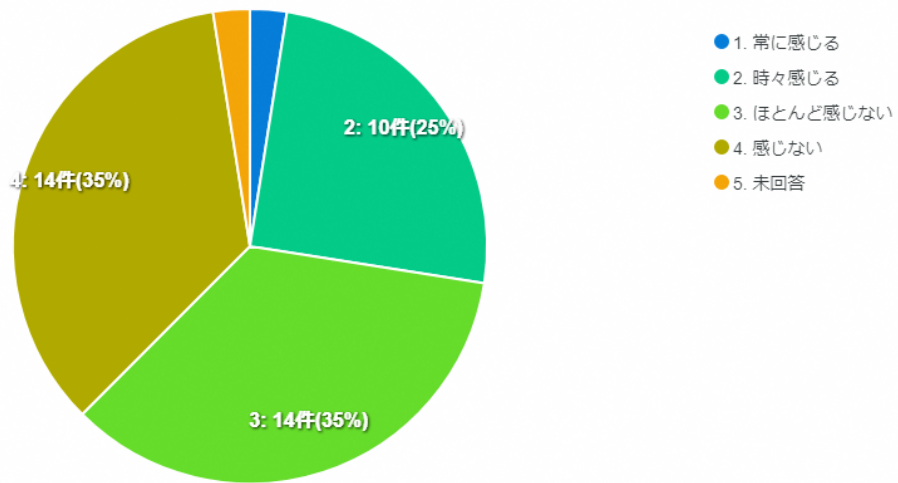
しょうらいの不安。

人生に求めるものがない中、自身に専心・努力を課す状況。

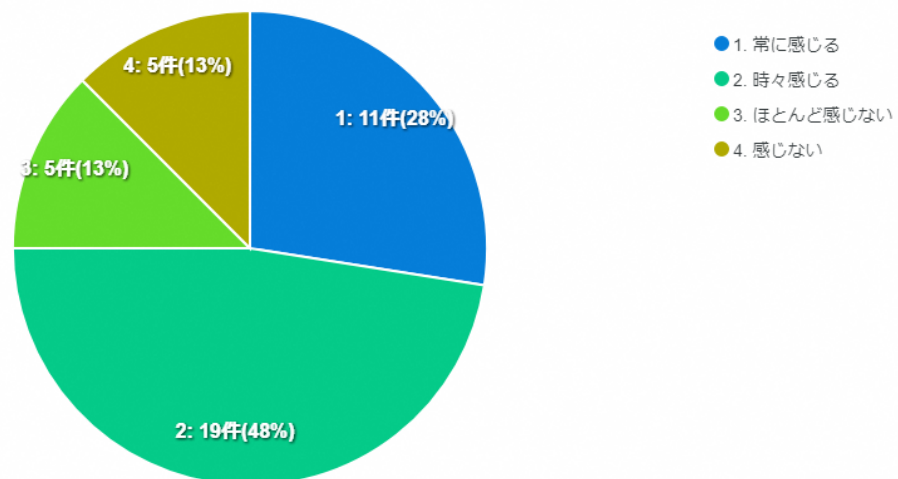
それがわかれば少しは生きやすくなりますか？

…捻くれててすみません…。

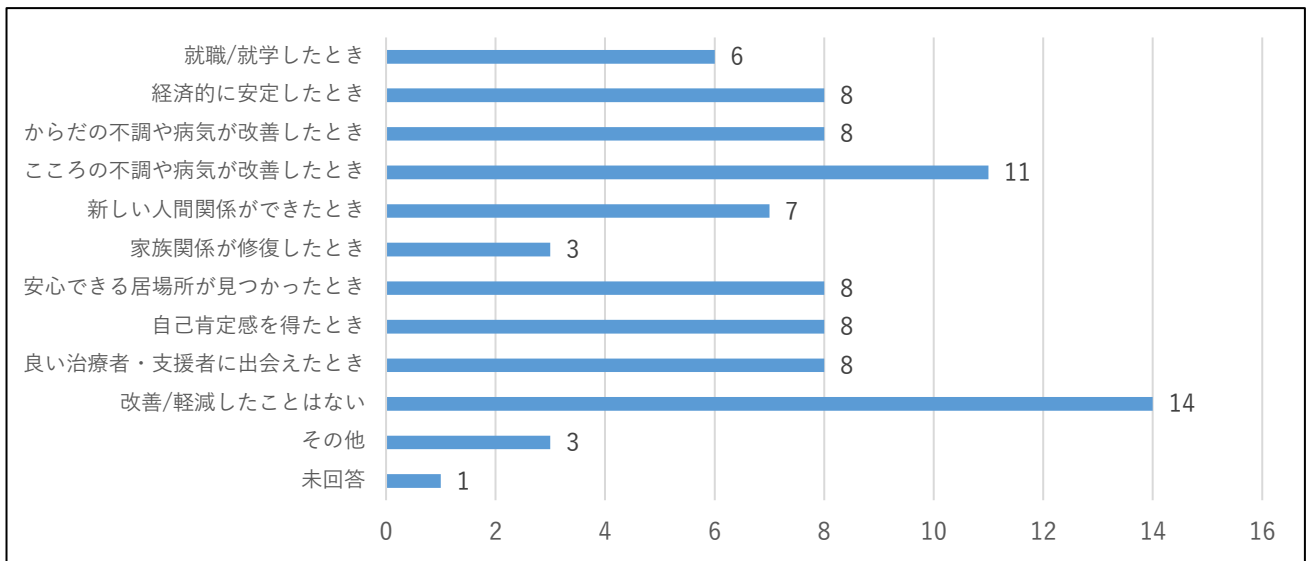
<自分のことを好きだと感じる時はありますか>



<自分のことを嫌いだと感じる時はありますか>



<生きづらい状況が軽減、改善したきっかけ（複数回答）>



○「生きづらさ」についての自由記述①

人とのコミュニケーションがとれない。

生きている喜びが感じられなかった。

人間関係のむずかしさ。

生辛さは、うつ気味の時や、心がモヤモヤする時。

高校卒業して就職して10か月そこで働いて  
ストレス、としんどい、スキル不足。

社会に対する恐怖心。友人との人間関係。  
自分を信用できない。

最低就労時間が長く就職できる気がしない。過去のトラウマのせいで  
就職に良いイメージがわからない。情緒が安定せずいつヤケをおこすか  
わからないので不安。仕事を心身の不調で休めないのが不安。

人が多すぎると疲れやすい。  
他人の目が気になる。気分が落ち込みやすい。  
家では普通に話せるので、親から外出することや他人と会って話すことへの不安を理解し  
てもらえない。

周りの人にはない感性、感覚を持っているが、  
それは自分にとって苦痛になるときが多く、  
その上、周りから共感を得られない

○「生きづらさ」についての自由記述②

生活がままならないのと家族からの目が厳しい。

収入が無いので不安。

生きづらさというか、しんどいなと思うことは、両親の老化(抜粋)

いじめやぎゃく体、一番そばでよりそってくれていた人が亡くなってしまったからです。

選べるのであれば、人として生まれてきたくなかった。なぜ己は生まれてきてしまったのか…。己がこの世に存在していることが嫌。

現実から逃げてから時間が空くと現在と未来の自分に向き合う自信が無くなり生きづらくなる。

簡単に答えられるほど単純なものではなくうまく言葉では説明できない。生きづらい理由なんてわからないけど、多分、一番自分を生きづらくしているのは、自分自身だと思う。

もともとはこころの未熟だったのに精神科につながり精神科医の非人間的な対応により病気になった。

自分の駄目な所ばかり目についてそれを治そうと考えても動けない自分に嫌気がさす。自分の事を好きになれないし、自信も持てない。そんな自分を家族は優しくしてくれて、そのままでも良いよと言われ、甘えてしまう。免罪符を盾に甘えて生きるのは辛い。

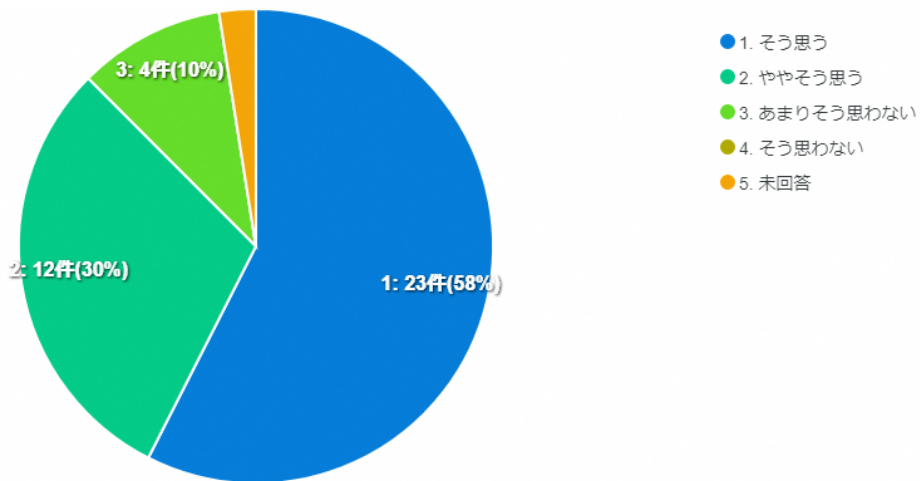
人間関係、業務内容ともに恵まれているにも関わらず、仕事を続けられず、休職を繰り返してしまっていることが辛い。周りにどンドン置いていかれてしまうことに焦りを感じる。今こんな状態で将来どうなるのかという不安。

ほとんどの人が過去、または現在において生きづらさを感じているという結果でした。原因や軽減、改善したきっかけが多岐に渡っていることから、生きづらさは複合的な要因の結果であり、個別性があるものと思われます。また、自由記述からは、生きづらさが将来への漠然とした不安にもつながっていることがうかがわれます。就労等、一定の成果に到達しても生きづらさが解消しない場合も多いと思われます。「やりたいことがわからない」と訴える人も少なくありませんでした。生きづらさは本人にとって長期的な課題と言えるのではないのでしょうか。

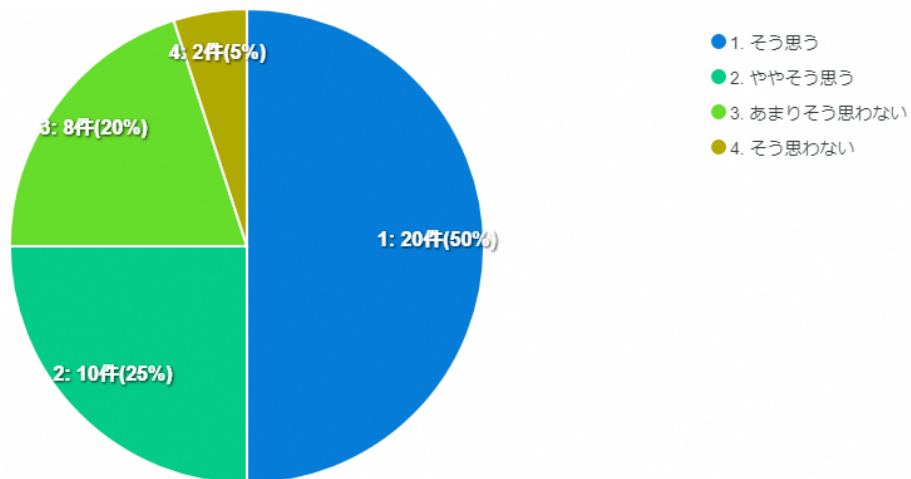


## 5. コミュニケーションについて

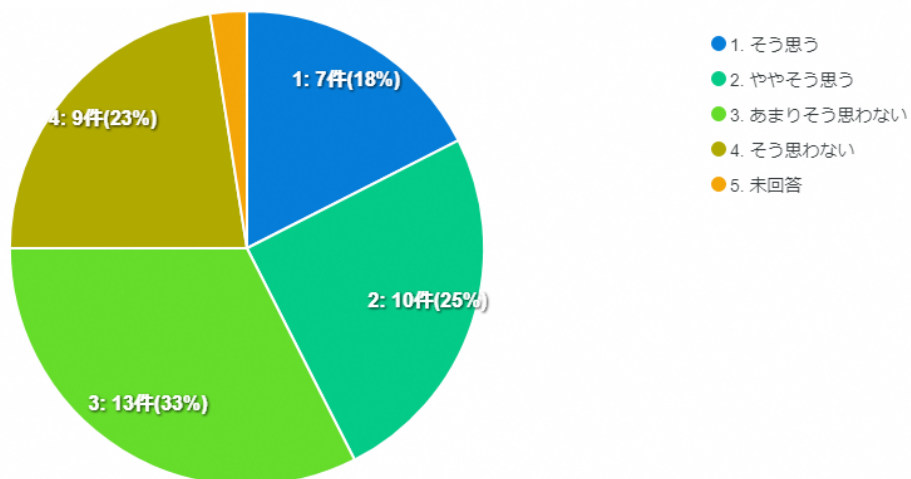
<社会的スキルに自信がない>



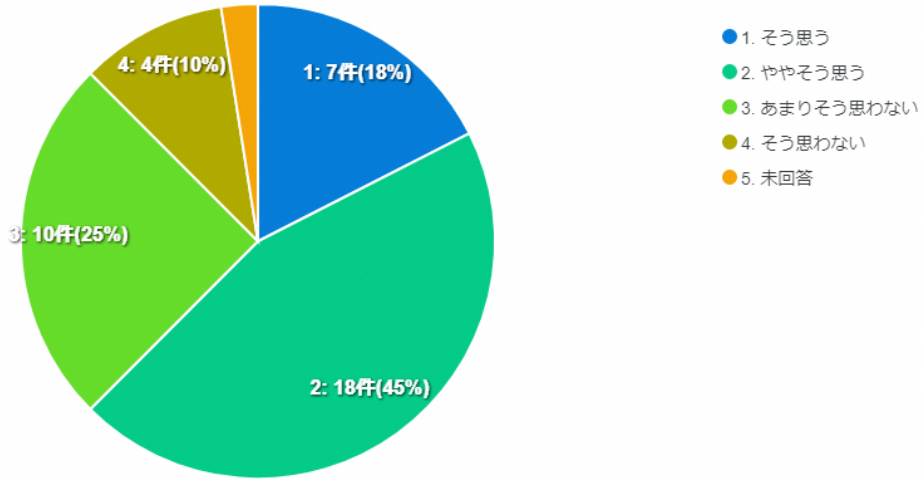
<対人関係に漠然とした恐怖がある>



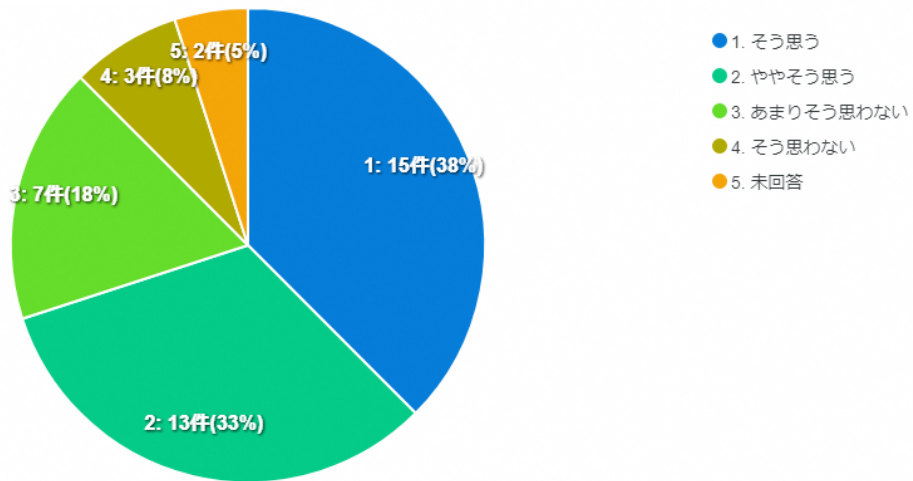
<男性に苦手意識がある>



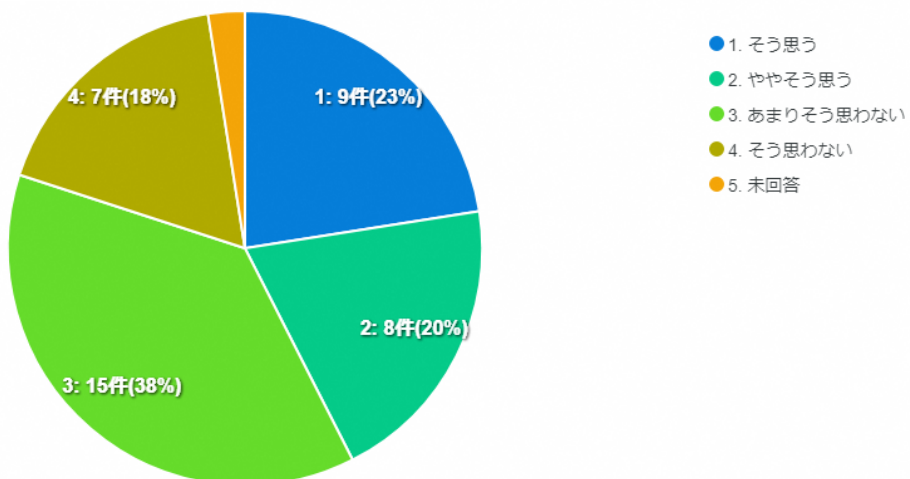
<女性に苦手意識がある>



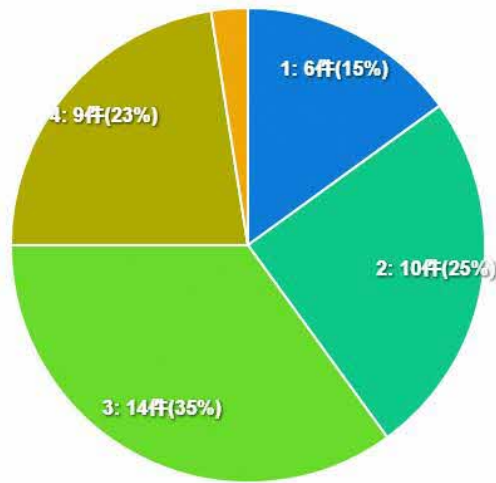
<人と話すのが苦手>



<いまよりも人と交流したい>

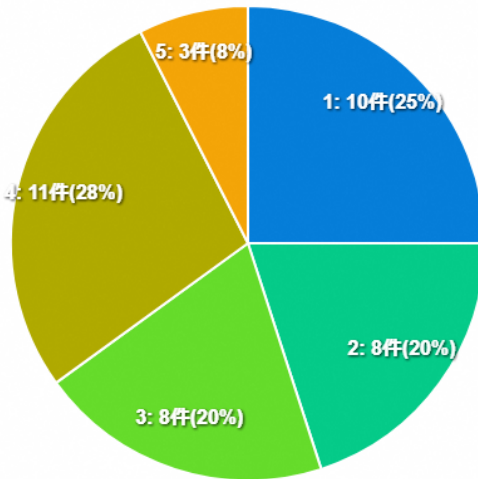


<似た体験・経験をした人と交流したい>



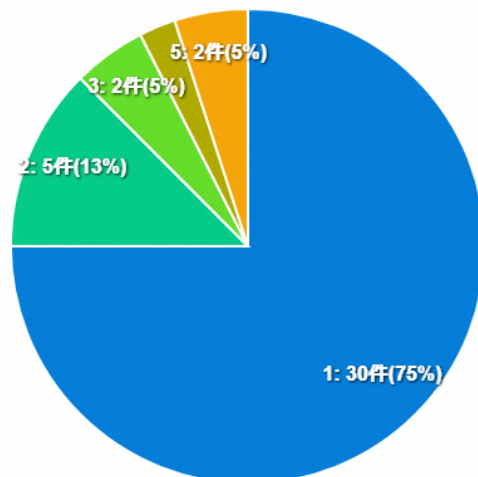
- 1. そう思う
- 2. ややそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. そう思わない
- 5. 未回答

<趣味を通じた交流は得意だ>



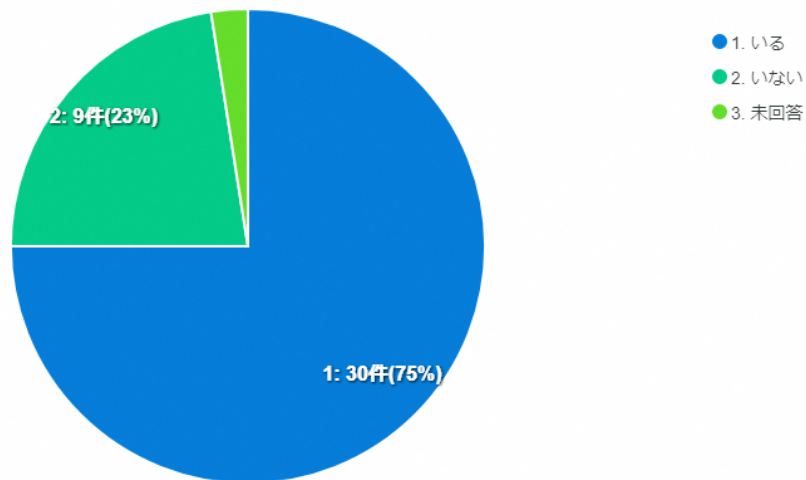
- 1. そう思う
- 2. ややそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. そう思わない
- 5. 未回答

<普段どの程度、人(家族含む)と話をするか  
(電話、Eメール、SNS含む)>

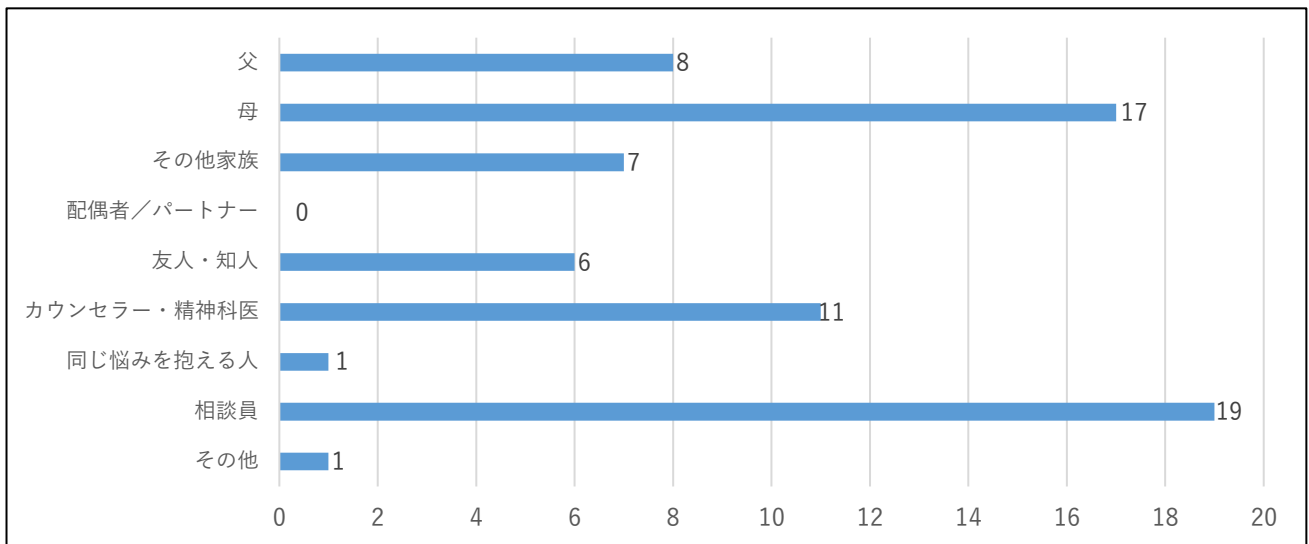


- 1. 毎日
- 2. 2~3日に1回
- 3. 一週間に1回
- 4. 一週間に1回未満
- 5. ほとんど話さない

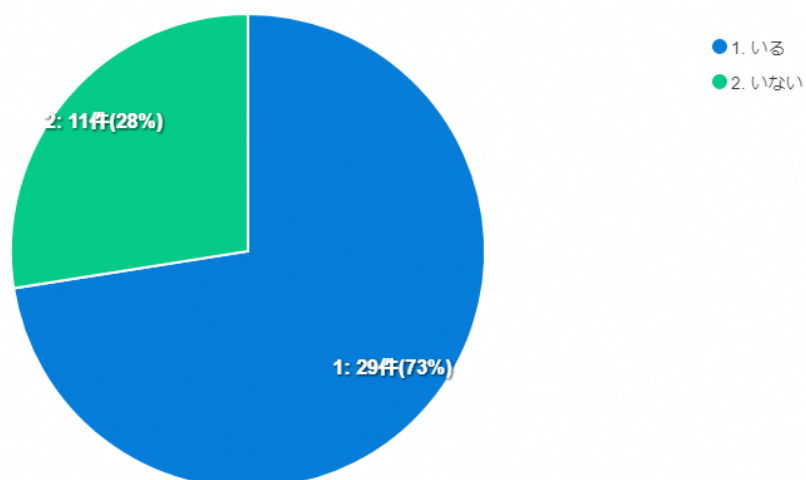
<悩みごとを相談できる相手がいるか>



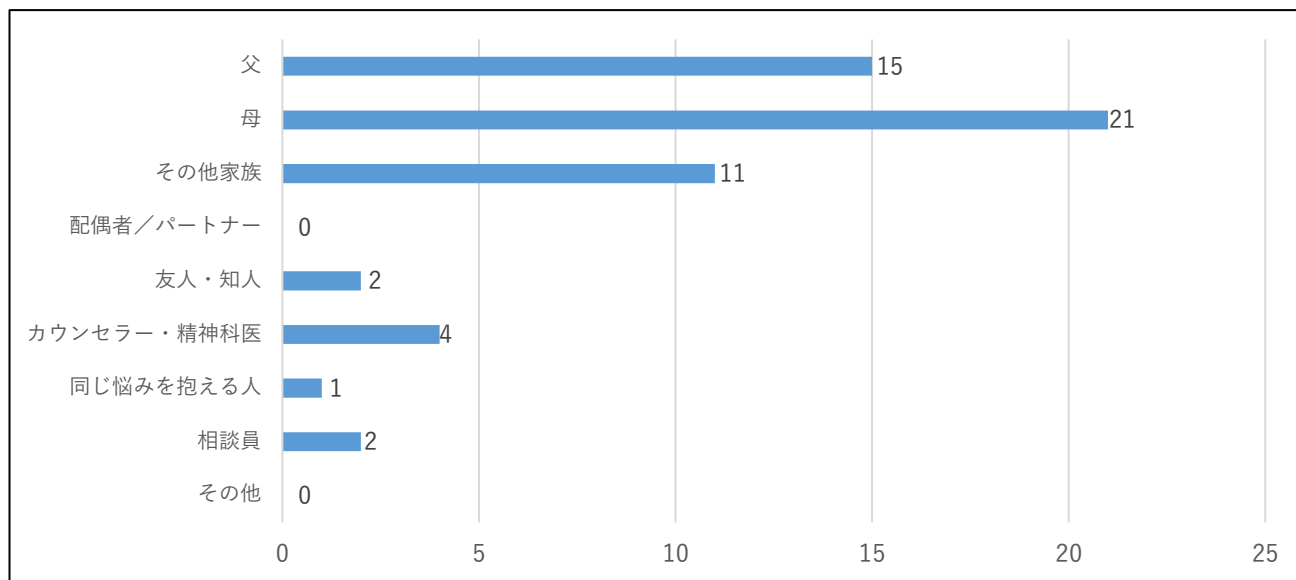
<悩みごとを相談できる相手は誰か (複数回答)>



<急な病気などによって、身の回りで困ったときに頼れる人はいるか>



<急な病気などによって、身の回りで困ったときに頼れる人は誰か（複数回答）>



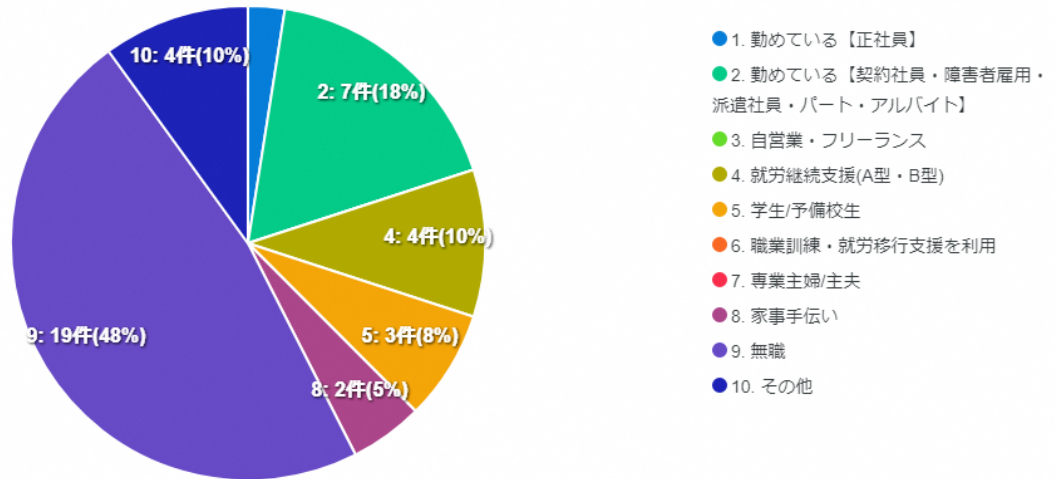
社会的な場で必要となるスキルに自信が持てないことが影響し、結果として人との交流を持つ意欲自体が低くなっているのではと想像しました。男性よりも女性に対して苦手意識を持つ人が多いのは、アンケート回答者に男性自認の方が多いことから、異性との交流に対してより苦手意識を抱きやすいのではと考えられます。

多くの人が毎日誰かと接する機会を持っています。家で家族と話す以外にも、SNS やオンラインゲームで外出せずともやりとりする機会が多いのかもしれませんが。一方で、日常ほとんど人と交流しない人もおられます。そうした人からすると、相談支援が数少ない交流の場となっていると考えられます。

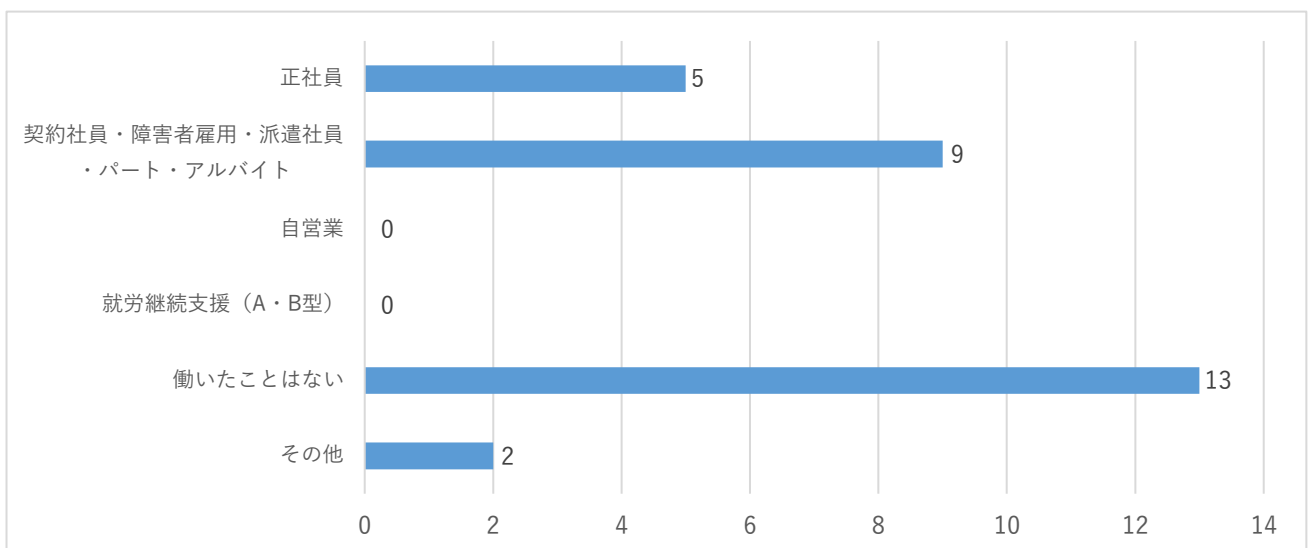
精神的な相談相手も身の回りの現実的な頼り先も、共に母親との回答がもっとも高い値を示しています。母子の関係性の強さ、母の負担の大きさがここでも示される結果となりました。また、4人に1人は悩みごとや身の回りのことについて頼れる相手がいないと認識しています。相談先、頼れる相手の少なさが不安や閉塞感につながることを考えられます。

## 6. 仕事について

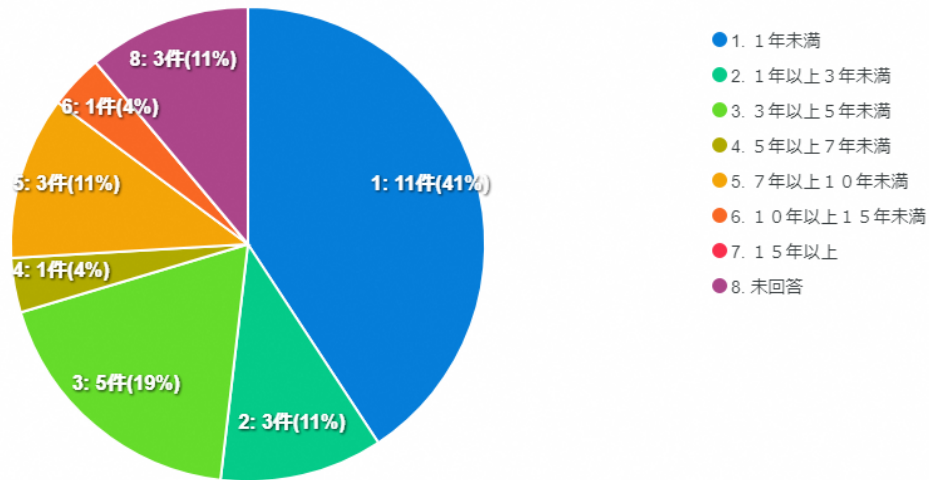
<現在の就学・就労状況>



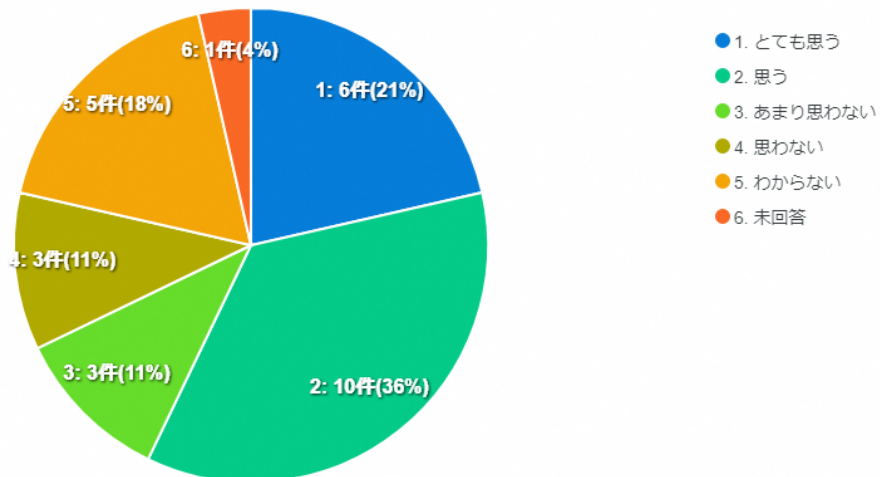
<現在就労していない方へ、過去に働いていたことがあるか（複数回答）>



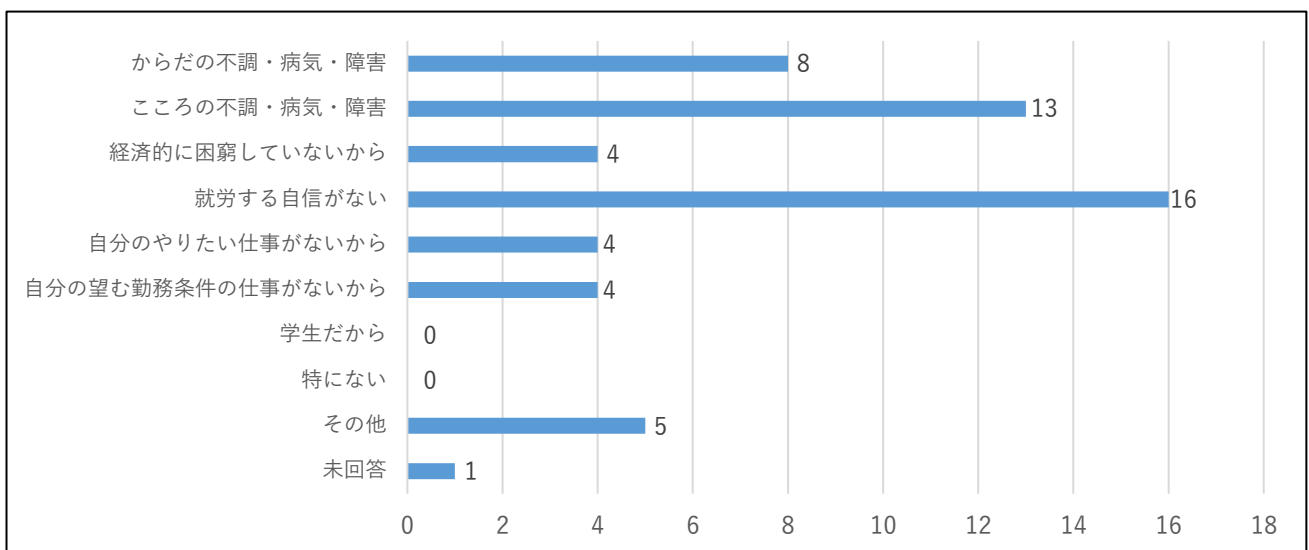
<過去、現在の就業期間（累計）>



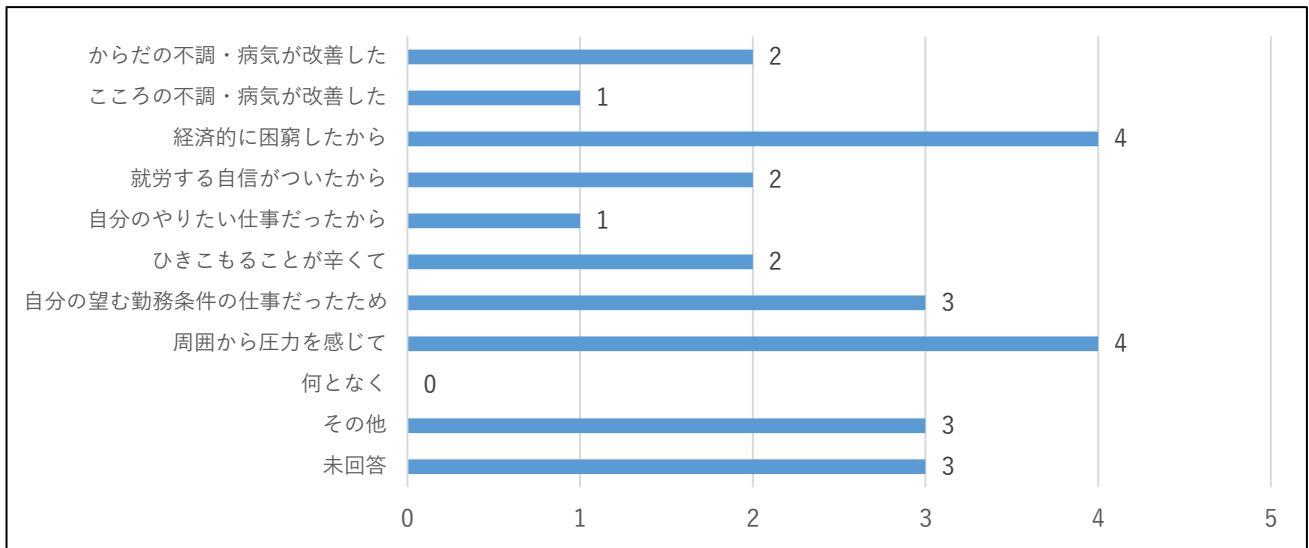
<働きたいと思うか（就労していない方対象）>



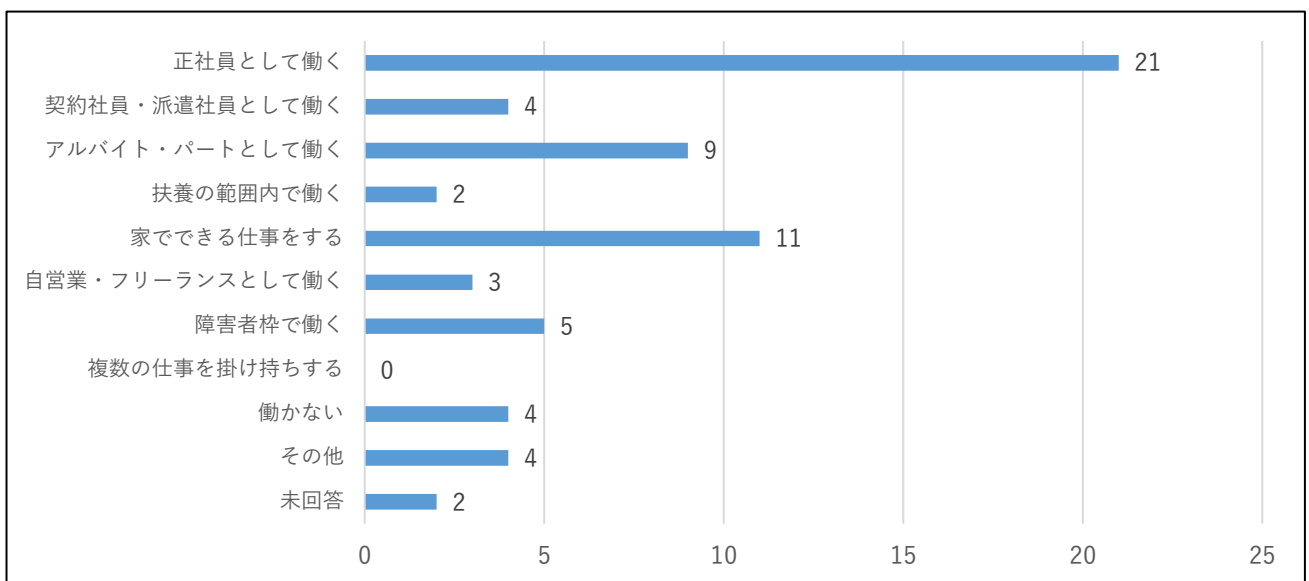
<現在就労していない理由（複数回答）>



<就労するようになったきっかけ（現在就労している方対象。複数回答）>



<理想の働き方（複数回答）>





○やってみたい仕事（自由記述）

今の対人援助の仕事が続けたい。

パティシエ、販売員。

動物関係の仕事をしたいです。

公務員。

IT、スポーツトレーナー。

悩みを聴いたり相談に乗りたいとか、そういうのではなく、ただ「話を聴く」ことはやりたいと思う。  
人に話すだけでも気持ちが楽になるから。

コンビニでバイト。

接客をやってみたいです。

特に無い。

ゲーム実況系ユーチューバー。

臨床心理士。

農的暮らし。

手仕事の職人。

カフェ、データ入力、イラストレーター、ミュージシャン、女優。

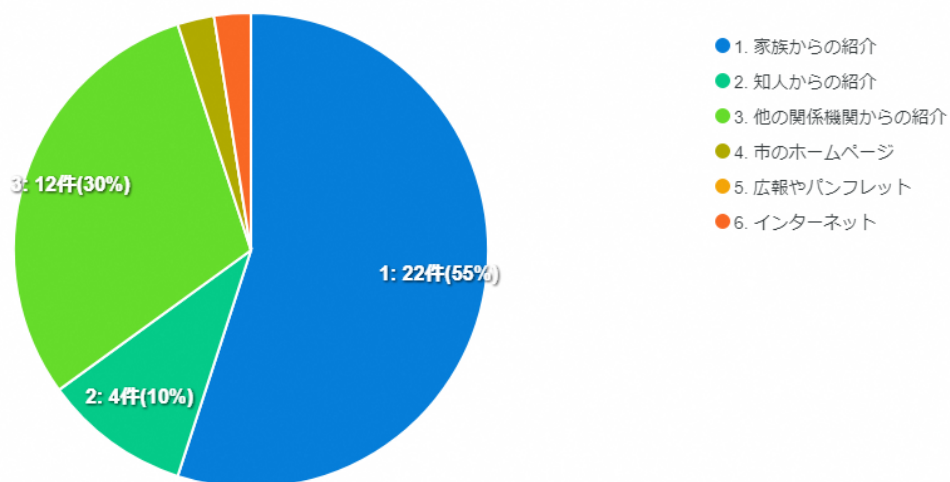
ぼんやりと働いた方がいいんだろうなあ…とは思いますが、具体的には想像もできない。  
体調（体・精心面）や生活リズムを整える事で精いっぱいだから。

働きたいと思っている人が6割近くおられます。できることなら働きたいと感じている人が少なくないと思われます。現在就労していない理由として最多であったのは「就労する自信がない」であり、「こころの不調」「からだの不調」が続きました。自身への自信のなさの背景には心や身体のしんどさが影響しているのかもしれません。

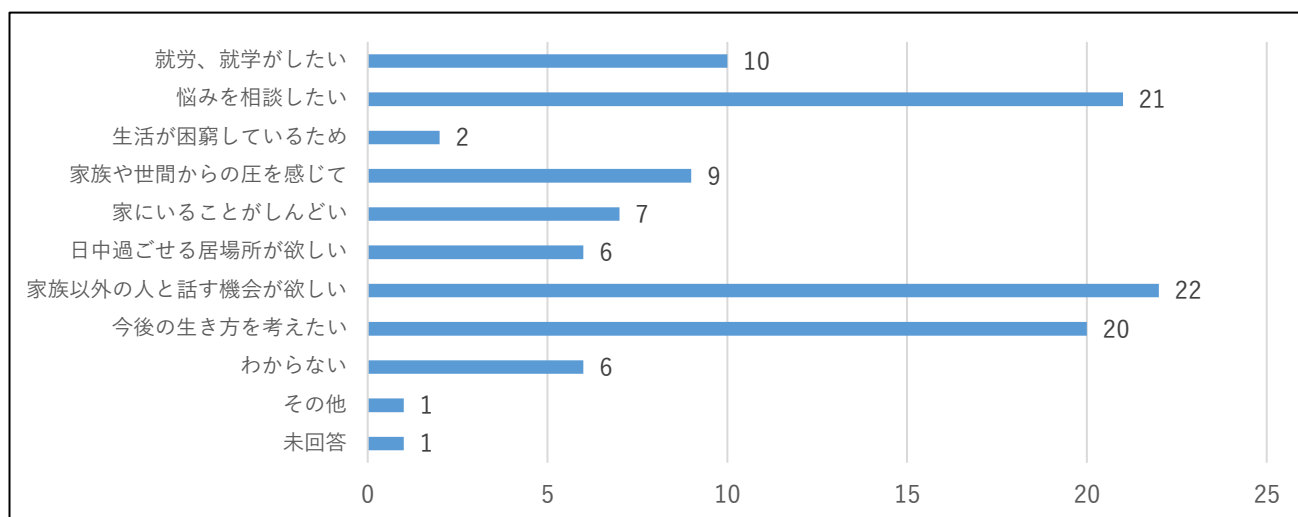
また、理想の働き方については、正社員として働くがダントツの1位で意外な結果でした。非正規雇用的人也一般化しつつある(良し悪しは置いといて)世の中にあってもなお正社員に対して圧倒的な支持が集まるのは、安心や将来への補償を求める気持ちである他、働くということの実際がイメージしにくい遠くにあることの表れなのかとも考えられます。かつて「働くというのは、遠い異国に一人で行くようなことだ」という表現をした当事者の方がいました。就労することがそれだけ心細く寄る辺のないこととして感じられているようにも思えます。

## 7. 支援センター、居場所「ひらぽ」について

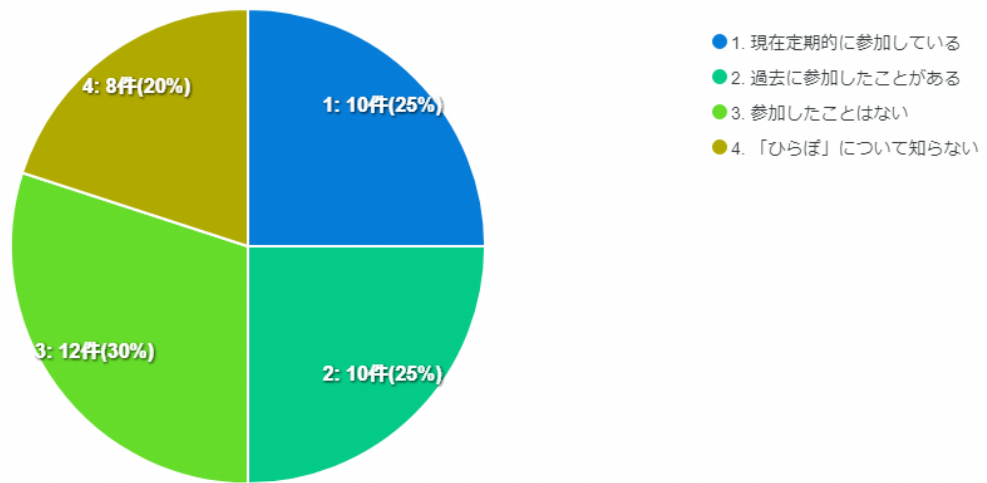
<支援センターのことをどうやって知ったか>



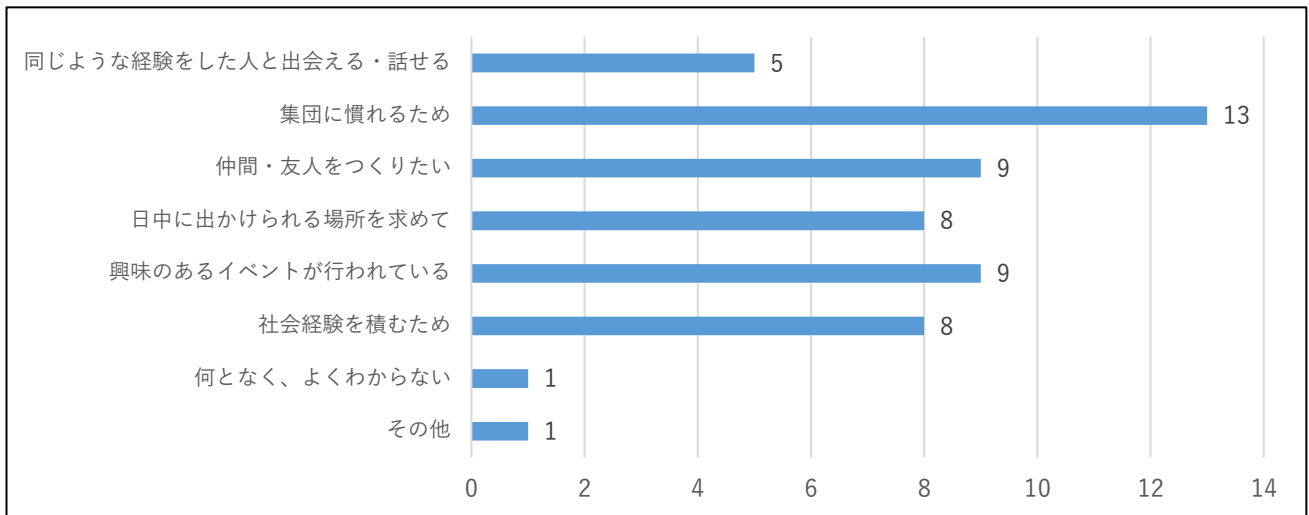
<支援センターを利用する理由、目的（複数回答）>



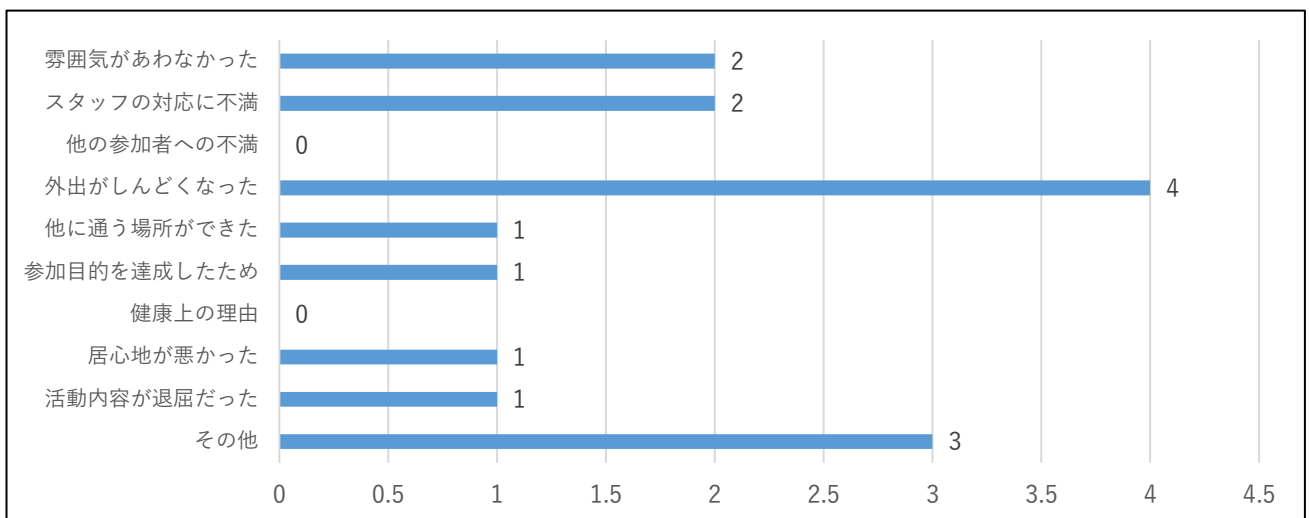
<居場所支援「ひらば」へ参加したことがあるか>



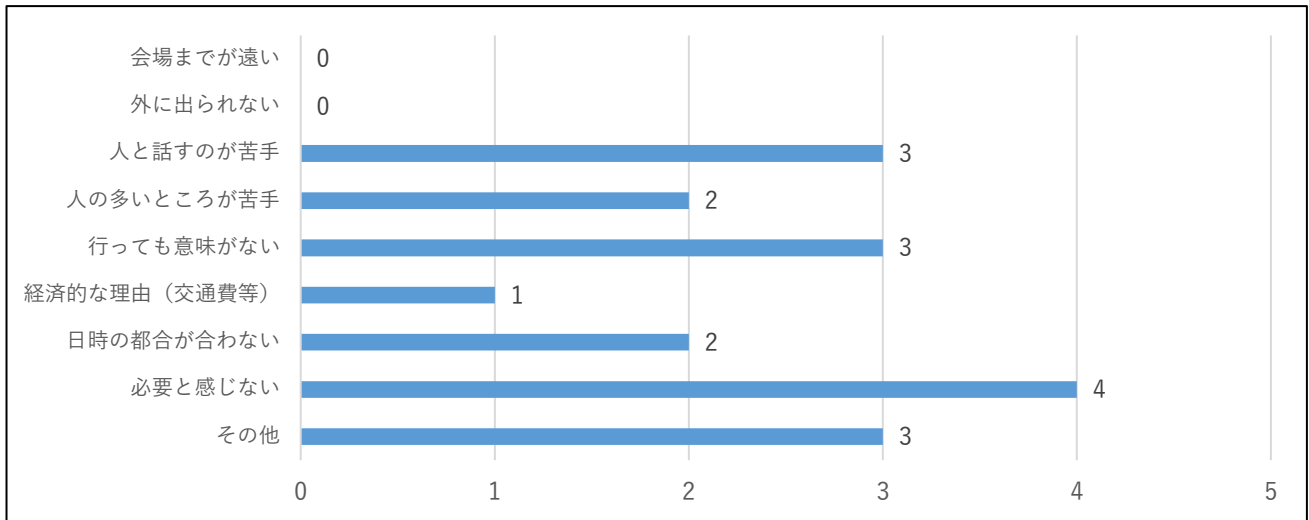
<「ひらば」に参加する(した)理由 (複数回答)>



<現在「ひらば」に参加しない理由 (以前参加したが今は参加していない方。複数回答)>



<現在「ひらぽ」に参加しない理由（これまで一度も参加していない方。複数回答）>



支援センターを知ったきっかけの9割が周囲からの紹介であり、当事者が支援センターに自力でたどり着くことの難しさがうかがえます。当事者を支援につなぐ際には、家族や関係機関の存在が鍵になるといえそうです。

支援センターを利用する理由・目的としては誰かに悩みを相談したい、今後の生き方を考えたい、家族以外の人と話す機会がほしいという人が多いです。これまで見てきたように、当事者の方の背景には心身のしんどさ等さまざまな生きづらさが存在することを鑑みると、納得できる結果です。支援センターに求められていることがここに示されているといえます。

「ひらぽ」へ参加したことがある人のほとんどは自分なりの参加目的を意識して臨んでいるようです。実際に参加したもののやめた人や参加したことがない人の理由からも、適切なタイミングでの声掛け（継続した外出に耐えられる状態か等）と、動機づけの話し合いがやはり重要であると思えます。

## 8. 自由記述「将来について感じている不安」

- ・生きていく上で全てが不安。
- ・自分が社会の中で生きていけるのか不安。自分がこの先就職できるのか不安。
- ・ちゃんと働けるところがみつかるのか心配。
- ・安定した収入が少なく、経済面で少し不安がある。
- ・地球温暖化で過ごしにくくなり体調不良になりやすい。老後暮らしていけるのか。
- ・両親が亡くなったり、介護が必要になったら生活が苦しくなるのではないかと不安に思う。
- ・スキルも学歴も無い、社会経験皆無で対人経験も浅はか。今よりも生活の質を落としたとして生きていける自信が無い。
- ・経験が浅く、初めての事や苦手なことに挑戦するときに過度に緊張してしまう。特にそれが公共の場だと周りの視線も気になり、やりこなせる自信がつかない。
- ・今後の資格などの勉強に向き合えるか。一人で生きていく自信が無い。自分自身を責めすぎる。メンタルが弱い所。
- ・体がついていけるのか不安です。
- ・生きていく上で全てが不安。
- ・積極的に、いつでも相談できる相手がない。相談したいときはネガティブ思考になることが多く、どうせうまく話せないなどと考えてしまったりして相談できずに1人で追いつめられることがあるなど、生活の質が大きく落ちて健康面でも不安になる。
- ・親が亡くなった時生きていけるのだろうか、生きているのだろうかという不安。漠然とした不安。自殺しようと思った時期もあるが、そんな勇気も持てないままずるずる歳を重ね、歳を重ねれば重ねるほど自責の念が強くなり、将来の自分がどうなっていくのかわからない。
- ・不安は色々あります。

## 9. 自由記述「あなたの思い」

・同じようなひきこもりの人間が少しでも前向きに生きられたらいいなと思います。リアルな友達は欲しいけど作れる自信がありません。

・何に対しても自信がない人間はどうして生きて行けばいいのか？

・自分にとって家族は精神的に支え(ささえ)であり、支え(つかえ)であると思う。「誰かの話を聴く」以上にやりたいことあった…音痴治したい。ただの自己満足だけど歌を上手く歌えるようになりたい。

・みんなと仲良くする。

・僕が生まれてさえいなければ周りの人はもっと幸せになれるんじゃないかとずっと思ってきました。両親ももともと仲が悪く早く離婚できたはずなのですが僕がいたせいでなかなかはなれることができなく、祖父母にもめいわくをかけ未だに生きていく意味がわかりません。

・自分からひきこもったことはありませんが、中学1年から2年の夏まで母にかんきんされていました。外に出ようとするとなぐられましたので家にいるしかなかったです。

・(ひきこもり)専用の精神科の先生に無料で診断してもらえるような仕組みがあれば。

・どうしていじめはどこでもあるのでしょうか?弱い者いじめする人の気持ちがわかりません。もっと楽しく気楽に働けるようになってほしいです。ただでさえ仕事に行くと作業すると疲れるのにセクハラとかパワハラする意味がわかりません。気晴らしするならもっと他のところでしてほしいです。そういう人がいるからひきこもる人がふえると思います。

・カウンセリングでお話をきいて頂けて相談にのって下さるのはとてもありがたいです。でも、まんぜんと年が過ぎてしまったと思います。なんかもっと構造化した相談というか、さいしょに目標を定めて、期限を決めてふり返ってチェックして、また新しい目標を定めたり、なんか道筋となるものがあつたら、こんなに年月がすぎなかったかなと思います。文句でごめんなさい。

乱字になって申し訳ありません。なぜかきれいな字で書けませんでした。ネガティブなことを思い出したり、向き合うのがしんどいです。

・このセンターは、利用期限がなく、急かされないところが安心できて良い。

・自分の行いはいつか返ってくるという言葉は私は信じています。私はなるべく「おだやかさ」を心がけていますが、そのおだやかさを意識することで、周りから自分への態度も「おだやか」になっていたりして、個人的に温かみを感じられて嬉しかったりもします。さりげないところから「優しさ」を意識できて、それがいつか報われる。そんな世の中になってほしいと思います。

・ひらぼに来て、他の利用者からあらゆる話を聞けることが楽しいです。でも時々聞き手にまわりすぎて気疲れすることもあるけど、そこから人間関係について色々学ぶ機会もできたりと、気疲れすることが必ずしも辛いことばかりではないことも知れました。利用者さん方、今後お互いに楽しく関われたらと思います。よろしくお願いします。

・人の怒りが怖く、元々対人恐怖があったが相手の顔色を伺い、どういう言葉なら傷つけずに済むのか、怒られないか何を話せばいいのかわからない。コミュニケーションを頑張った時期があったが、八方美人と言われ更に他人と関わるのが怖くなった。

人と会って会話をするのはとてもエネルギーを要するけど、その場にいるだけでも自分は生きてるんだと実感できるので居場所があって良かったと思う。

・ベーシックインカムのような制度があれば、少額の収入でも、自分の趣味を仕事にできたり、子育ての助けにもなると思います。日本は数十年所得が増えていないのだから、低収入でも暮らしに余裕のある社会にしてほしい。

・あらゆる問題解決に必要なのは相談じゃなくて金銭的支援だと思います。

・自分は感覚過敏で、あらゆることに体が反応してしんどくなることが多く、しかも周りに同じような悩みを抱えている方を知らなくて、中々打ち明けられずにいたりもしますが、よく考えると、今後同じような悩みを抱えている相手に、自分から寄り添ってあげられるという強みが生まれつつあるので、この過敏さは、苦しいことがあっても貴重な存在なのかな、と自分の存在価値が1つ見つかったとも思えます。

・引きこもってる時は楽でした。何も考えない、動かない。外との関わりを持たない。家で勝手に気まずさを感じて家事を手伝って、後から家の家事を任されて居場所が出来たと思った。

でも外に出る必要性が出来て、外との関わりを持った。子供時代の全てを引きこもって過ごしてきたから外への漠然とした不安は恐怖に変わっていて、外の全てに警戒して、精神を磨り減らして、それでも何とか慣らして行って、ようやく一人でバスに乗って枚方まで行きました。

一人で映画も観れた。それは十年前の自分が驚く程の進歩だと思う。

社会人と名乗れるようになればいいな、と思ってこれからも頑張りたいと思う。



## おわりに

「ひきこもり支援」とはまずひきこもり状態の解消からはじまり、最終的には就労・復学に至ることで「社会適応」というゴールを目指す…そんなイメージが一般的には(当事者本人にも)持たれやすいかと思います。しかし今回のアンケート結果をみて、そのような直線的な発想だけでは当事者の方の本当のしんどさから遠ざかるばかりだと改めて感じます。例えばひきこもりに至ったきっかけに、こころの不調が第一にあることなどは真摯に受け取られるべき問題です。

社会適応という言葉が使われるとき、暗に「こうあるべき」という正しい姿が想定されていることがしばしばあります。しかし物事はきっとそう単純ではないでしょう。アンケートに寄せられた言葉から、世間や社会という大きなものと自分自身との折り合いに、多くの人が苦しんでいるように感じられました。怒り、孤独、不安…特に自由記述のなかに、切実で生々しい想いが表現されています。

一方でしんどさや苦しさだけでなく、願い、生活模様、自己分析、決意…そうしたものもまたアンケート回答から読み取れます。「ひきこもり」とひとくくりにされるようなものではない、回答者ひとりひとりの個性がそこに確かに存在している…生きている温度というか、日々のリアリティのようなものが浮かび上がってくる…そんな風にも感じます。

社会適応を語るなら、そう語る側の社会(我々市役所の相談員含め)もまた当事者のことを理解しようとする姿勢が本来不可欠です。今回のアンケートで表現された思いの数々を我々相談員は、普段どれだけしっかりと受け止められているのか。考え直す良い機会になりました。また、回答していただいた方にとっても(もちろん全員ではありませんが)、自身の考えや想いを整理する機会にさせていただけたのかな、と感じています。



このアンケートやリーフレットのデザインで用いられている青、黄、緑の枠。これは生きていくうえで私たちを縛り、つなげる“鎖”をイメージしています。生きていく上でのあれこれのつながりは私たちを息苦しくさせるけれど、つながりを完全に絶っては生きていけない。つながりによって支えられてもいる。当センターを利用されることで鎖の輪を自分で外したり付け直したりができればよいと思いますし、外の世界だけでなく自分自身の想いや願いともつながっていけたらよいな、と思っています。

回答にはありがたいことに支援センターを利用して良かったというポジティブな声もいただきました。とても励みになります。もちろん、批判もありました。そちらもしっかりと拝見しております。

この報告を読まれて、みなさんはどのような感想を抱いたでしょうか。できたら、ぜひ感想をお聞きしてみたいです。はじめにも書きましたがこのアンケート報告が、読まれた人にとって何らかの気づきや発見となれば幸いです。回答を見て何か腑に落ちたり、他の人の回答に共感したり…そんな時間を少しでも提供できたのなら嬉しく思います。

発行日：令和5年3月31日

枚方市子ども未来部 子どもの育ち見守り室 子ども相談課

ひきこもり等子ども・若者相談支援センター